

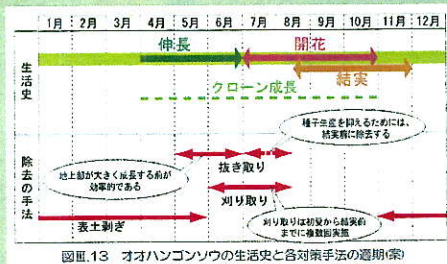
オオハンゴンソウの駆除方法

オオハンゴンソウの駆除の時期と注意事項

■オオハンゴンソウの駆除は、できるだけ種を付ける前の**5月から8月中旬まで**に行ってください。

■駆除に当たっては、ご自宅の庭のお手入れや、自治会の草刈、一斉清掃、水路の管理の時など、**土地所有者の了解が得られるところ**で行ってください。

■自治会等で一斉清掃や草刈を行う場合には、参加される皆さんにオオハンゴンソウの駆除も行う旨事前に伝えるようにしてください。



河川における外来植物対策の手引き 国土交通省河川環境課より 滝沢市では少し寒いため半月ほど遅れているようです。

オオハンゴンソウの駆除方法

1 抜き取り ベストな方法 根絶できる

■オオハンゴンソウは、多年草なので地下茎や根が残ると再び成長・開花して増えてしまいます。スコップや根堀、バールなどで**根ごと抜き取って**ください。

■結構大変な作業です。場所にもよりますが、土が固くて手だけでは抜けないことがあります。無理をしないでください。

■土の中に小さな種が埋まっているので、種から発芽したり、根の破片からも芽が出ることがあります。根絶させるためには何年もかかります。**毎年継続して抜き取り**を行ってください。あきらめずに続ければ、根絶することができます。継続は力なり！



2 刈り取り ベターな方法

■鎌や刈り払い機などで**地際から刈り取って**ください。

■きれいな花ですが、刈り残したりしないでください。

■簡単な方法ですが、根が残っているので**根絶することはできません**。できれば年数回、毎年継続して刈り取りを行ってください。**拡大を防止**することができます。

3 除草剤 慎重に行う方法

■オオハンゴンソウに、**グリホサート系の除草剤**(グリホサート、ラウンドアップなど)を散布してください。

■一番簡単な方法ですが、グリホサート系の除草剤は、オオハンゴンソウだけでなく**ほとんどの植物を枯らしてしまう**ので、在来植物にも大きな影響を与えます。在来植物がなくなったあとにオオハンゴンソウだけが残ってしまうおそれがあります。このため、できるだけ**オオハンゴンソウのみに散布**するなど、慎重に使用するようにしてください。

■良好な自然環境の場所を避け、周辺の農地などへの影響などを十分考慮してください。

■除草剤の使用に当たっては、除草剤ごとに定められた使用方法、容量等を守って事故のないよう十分に気をつけてください。

■土の中には、種が残っています。発芽して、元に戻る可能性があるので毎年確認をしてください。

駆除したオオハンゴンソウの処理方法

- 生きたまま運搬すると外来生物法違反になります。このため、
- 原則として刈り取りや掘り取ったオオハンゴンソウは、種や根が散らばらないように気をつけてその場で適切に処分(腐らせる)してください。
- あらかじめ、防除をする人が防除方法などをHPなどで公表しておけば、種などがこぼれないように**ゴミ袋などに入れて、燃えるごみとして処分することができます**。

オオハンゴンソウ駆除の公表

■地域のボランティアによる防除など小規模な防除については、以下の場合であれば、法に基づく防除の公示、確認又は認定といった手続きをとらなくても外来生物法の飼養等(飼養、栽培、保管、運搬)の禁止の適用除外となります。

一 植物

①防除した当該特定外来生物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。

②当該特定外来生物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。

③防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する次の事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表し、かつ、公表された次の事項に従って当該防除を行うときに、当該防除の実施の一環として当該特定外来生物を運搬していること

▶当該防除が特定外来生物である植物の防除に該当すること。

▶当該防除を実施する者

▶当該防除の実施日時及び実施場所